熊博発第000214号

平成30年（2018）12月17日

平成30年度　全国科学館連携協議会　九州ブロック会議　報告書

熊本博物館
研究員　山口　均

日時	平成30年（2018）　11月8日（木）14:00～17:30　　11月9日（金）8:45～12:00　（２日間）
会場	＜1日目＞　熊本博物館　（熊本市中央区古京町3-2） ＜2日目＞　熊本市内施設見学
参加者	＜1日目＞　連携協事務局 1名・加盟館 23名（15館） 及び 熊本博物館所属職員（プラネタリウムスタッフ）4名 ＜2日目＞　加盟館 17名（13館）　【2日間の参加者総数：30名（のべ45名）】
目的	全国科学館連携協議会規約に基づき、その目的に沿った事業の円滑な運営を図ると共に、本会議加盟館相互の交流を深め、地域の特性を生かした事業に取り組むことにより、九州の科学普及向上に寄与することを目的とする。
内容	＜1日目＞　11月8日（木） 1　開会　14:00～ 幹事館挨拶【熊本博物館長：植木 英貴】（以下、敬称略） 2　事務局より（挨拶・報告等）　14:05～【連携協事務局長：谷村 優太】 〇九州ブロック会議の開催にあたって 〇連携協からの配布資料関連（補足説明） ・ 2019年度 巡回展示物の貸出について（募集） ・ 2018年度 海外科学館視察研修について（募集） ・ SDGsの達成に向けた連携協の取組について（HPに各館の取組例を掲載中） 〇その他 3　会議参加者自己紹介　14:10～　（各1分程度） 4　協議　14:30～ (1) 平成29年度九州ブロック会議報告及び収支報告等 【佐賀県立宇宙科学館統括マネージャー：大井 直】 (2) 協議：事前に各館から議題案に対する回答を頂き、それに基づき意見交換（以下抜粋） ※ 今回は全8議題の内、議題1及び2を中心に報告し、質疑・応答等を行った。 **＜議題 1＞「博学連携の促進に向けた取組の工夫」について** ※ 事例紹介（プレゼンテーション）　熊本博物館『学校教育支援事業について』 ～ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ派遣授業（お出かけ事業）と館内学習支援活動（お迎え事業）～ ※ 協議内容（意見交換） 〇派遣授業プログラム集の作成方法や対象校について聞きたい →　学芸員と研究員の協働により、採択教科書を読み込みながら作成。派遣域は熊本市内限定で、主に小学校を対象としている。

		〇派遣授業や館内学習は、学校側の時間的な余裕が無いため、なかなか活用が難しいと思われるが何か手立ては？ →　以前から、小学校5年生の集団宿泊教室時に「博物館プラネタリウムで学習投映番組を鑑賞していく」流れができていたので、それらの学校行事等を活用促進につなげたい。 〇その他 ・ お出かけ事業（派遣授業）の要請時間数 ・ 学習内容に関する（先生との）事前打ち合わせ方法 ・ 派遣授業は本来の学習内容に沿っているのか（目標達成ができる内容か）　等 **＜議題 2＞「地域の活性化に寄与する施設として、交流人口（来館者・観光客）の増加につながる取組の具体例や今後の構想」について** ※ 事例紹介（プレゼンテーション）　阿蘇火山博物館：池辺館長より 『「2016熊本地震」と阿蘇火山博物館の近況報告』 （1）2016年の「熊本地震」や「噴火」による阿蘇の被害 （2）復興に向けた取組と今後の対応等 ※ 協議内容（意見交換） 〇阿蘇における防災教育の具体例について聞きたい →　現地ガイドの案内で、地震で倒壊した阿蘇神社などの巡検と、現地では立ち入りが困難な部分については火山博物館内で解説を加えるなど、いくつかのコース（プログラム）を設定している。日本は火山国・地震国であり、自分が住んでいる場所の防災・減災の取組についても触れ、防災意識を高めていくようにしている。 （※ 雲仙岳災害記念館の取組例も宮脇館長より紹介していただいた）
内容		〇災害による来館利用者の減少に伴い、運営資金をどのように賄っているのか →　当館は民間企業出資の財団運営で地元の製薬会社の支援を受けてきたが、今回の地震でそのバックアップも困難となった。被災して休館も考えたが閉館中の周辺施設のことを考慮し、職員数・人件費を削減して財団の基金も取り崩しながら運営している（ｸﾞﾙｰﾌﾟ補助金の活用、銀行からの借入もあり）。今後は大学や行政とも連携した取組を進め、入館者数の回復につなげていきたい（まずは、2年以内に10万人を超えたい）。 〇その他 ・ インバウンドに対応した取組について（キャッシュレス化、周辺施設との連携）　等 **以下、＜課題 3～8＞については配布した会議資料中の「回答集」にて確認** **＜議題 3＞　2019年10月以降の消費税アップに対応した取組状況** **＜議題 4＞　プログラミング教育や関連事業の企画、成果等** **＜議題 5＞　プラネタリウム番組の内容に関する選定方針** **＜議題 6＞　企業との連携事業について（方法や成果等）** **＜議題 7＞　防災対策（地震・台風・豪雨等に備えた危機管理体制、その他）** **＜議題 8＞　常設展示リニューアル後の入館者動向** **＜その他＞　持ち寄った広報物の紹介（希望館より）** (3) 平成31年度以降の九州ブロック会議について ※ 担当幹事館の確認及び、細則への追記・削除事項等についての提案 〇平成31年度は福岡市科学館が幹事を担当。 〇新規加盟館の紹介等（29年度以降、3館追加）

	・ 佐賀市星空学習館、リナシティかのや（以上：H29）、沖縄こどもの国（H30） 〇細則中の『幹事館順番表』の修正案について（承認） (4) 写真撮影（休憩後） 16:05～　於：1F常設展示室前エントランス 5 館内見学 16:10～ 展示全体テーマ『未来へつなぐ熊本の記憶』 1F：熊本の歴史と文化の由来をさぐる（人文系展示物を中心に） 2F：熊本の自然にひそむ魅力と不思議に気づく（自然系展示物を中心に） 6 プラネタリウム鑑賞 16:40～ 【熊本博物館天文担当学芸員：野村 美月】 (1) 当日の星空解説 (2) オリジナル番組『星が見てきたKUMAMOTO』視聴 ※ 情報交換会を1日目の19:00～21:00で行った（参加者22名）。 場所：ダイニングカフェ彩（熊本市中央区手取本町1-1）
内容	＜2日目＞ 11月9日（金） ※ 見学地に向けてバス移動 8:45～ ●熊本市水の科学館 見学 9:10～10:10 熊本の『地下水』について学ぶDVD視聴 北岡館長による館内施設の案内・説明 ●水道記念館 見学 10:10～10:40 大正時代に建築された外観（登録有形文化財）と、当時の送水ポンプや資料等を見学 熊本市上下水道サービス公社のご担当者（2名）による館内施設の案内・説明 ●熊本城ミュージアムわくわく座 見学 11:15～12:00 平成28年熊本地震（前震・本震）における熊本城の被災状況を中心に資料見学 （ミニチュア熊本城にプロジェクションマッピングで被害を再現する展示物やDVD視聴） ご担当者による施設の案内・説明 〇12：00 終了・解散 ※ 午後より希望者による「科学工作」研修会を開催 13:15～15:30 4館6名の参加（工作実技、実物と製作手順を示したプリント資料を元に工作物の紹介）

【 記録写真 ① 】

会議風景①

幹事館 植木館長 挨拶

事務局より 報告・連絡

会議風景②

会議風景③

記念撮影

【 記録写真 ② 】

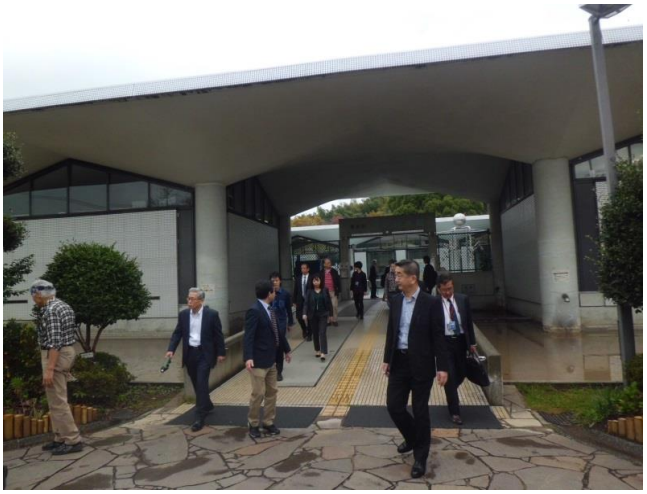
2日目の施設見学（3カ所）へ

視察用バス（水の科学館 到着）

水の科学館で「熊本の地下水」に関するDVD視聴

北岡館長による館内説明風景

館内「水の実験室」の様子



水の科学館から水道記念館へ徒歩で移動

【 記録写真 ③ 】

水道記念館の外観（登録有形文化財）

大正時代の送水ポンプ（建物内）

熊本城ミュージアムで担当の方から説明を受ける

熊本地震を再現するプロジェクションマッピング

熊本城復旧工事の様子をリアルタイムで投影中

2階の大型スクリーンで見る被災直後の熊本城各所